

# 2026年度 第26回 ジャビットカップ争奪春季大会

## 試合規定および注意事項

参加資格は練馬区学童野球連盟に加盟登録している3年生以上の単独チームとし、今大会は合同チームの参加を認め、参加全チームによるトーナメント戦とする。なお、登録人数は10名以上25名以下とする。

本大会は2026年度『公認野球規則』、『全軟連規則』も適用しますが次の規定と各会場でのローカルルールを優先する。

### 1. メンバー表交換

試合開始30分前までに4枚を本部に提出し、先攻後攻は、球審立会で両チームの主将がジャンケンで決める。

また、特別継続試合を鑑み、登録表記載選手全員を記載すること。

### 2. 試合方法

- ① 試合球は『公認ケンコーボールJ号』とし、各チームは新球を2球提供する。(試合終了時に返却します。)
- ② 投手の投球制限は6年生・5年生は1日70球、4年生以下1日60球を基本上限とするが、投球数が70球または60球に達した打者に対しては、その打席が完了するまで投球することが出来る。また、投手は変化球を投げる事を禁止する。
- ③ 全試合を6イニングとする。試合時間は1時間30分を経過の時点で次のイニングには入らない。なお、裏の得点が多く、攻撃中に時間となった時点で、本部より試合終了を宣告する。
- ④ 同点で試合が終了した場合、タイブレーク方式を適用し試合を続行する。継続打順とし、無死1・2塁の状態として試合を行う。最大2イニング迄とし勝敗が決しない場合は抽選によって勝敗を決定する。なお、決勝戦も同様とする。
- ⑤ 得点差によるコールドゲームは、3回終了時12点以上、4回終了時10点以上、5回終了時7点以上の差を生じた場合に適用する。なお、決勝戦は除く。
- ⑥ 正式試合は5回終了時とする。降雨・日没などにより規定回数又は制限時間迄試合が進行していない場合は後日、特別継続試合として行う。また、5回を過ぎて同点で試合が中止になった場合も後日、特別継続試合として行う。
- ⑦ 指名打者ルールを使用することができる。ただし、必ずしも指名打者を指名しなくてよいが試合前に指名しなかったときは、その試合で指名打者を使うことはできない。  
※野球規則5.11(a)のみ適用、5.11(b)(二刀流)は採用しない。

### 3. 試合進行

- ① 試合開始前のシートノックはありません。但し、ベンチ入り後に外野フィールドでのキャッチボールや守備練習を認める。(外野フィールドでのバットの使用は禁止します。)
- ② ファウルボールは、近いベンチ側で拾うこと。
- ③ 攻守交代は、かけ足でスピーディーに行う。
- ④ 危険防止のためネクストバッタースサークル内を含め、バットを振らないこと。また、相手投手の投球練習に合わせてバットを振ることも禁止する。試合開始整列前までの素振りは指導者立ち合いのもと外野側のファウルグラウンドで行う。素振りはベンチ前では行わない。
- ⑤ 投手が投球姿勢に入ったら、応援歌等は一旦とめるなど、スポーツマンシップに則り、両チームの選手が動揺するような発言等の行為は、双方ともに配慮すること。
- ⑥ 投手の準備投球は、初回5球、次回から3球としイニング間の準備投球時の捕手はベンチコーチを認めるがキャッチーマスクを着用する。(試合中に各ベンチにて行う場合も同様にキャッチャーマスクを着用すること。)
- ⑦ 試合運営上のグラウンドルール及び注意事項は各会場の取り決めに従うこと。

### 4. 申し合わせ事項

※当該試合チームは、用具点検の為、ベンチ入後、用具を直ちにベンチ前に揃えて置くこと。

- ① ベンチは抽選番号の若いチームが1塁側とする。(ただし、決勝戦のベンチは球審立会のもと、両チームの主将がジャンケンで決める。)
- ② 守備タイムの制限については、監督、捕手又は内野手が一試合に投手の所に行ける回数を6イニングの試合であるが、3回以内とする。特別方式になった場合は1イニングに一度認める。(監督に限りピッチャーズマウンドに行き指示をすることができる。)また、攻撃タイムの制限は3回以内とする。
- ③ ボーク行為があった場合には、即ボークを宣告する。
- ④ 抗議のできる者は、監督と当該プレーヤーとする。(ボール・ストライクの抗議は認めない)
- ⑤ 背番号は選手0番～99番の25名以内と、監督30番、コーチ29・28番、登録については男女を問わない。(合同チーム監督30番・コーチ背番号29・28番は同様とする)
- ⑥ 当該試合前の投手の練習は、先発バッテリー(投手1名、捕手1名)と本大会登録の監督またはコーチのいずれか1名が前試合経過60分、又は4イニング終了後に行うことができるが、捕手は必ず用具装着の事。また、試合前の練習等においても、本大会登録の監督、コーチ以外はグラウンドに入れぬ。
- ⑦ 試合開始予定時間の30分以内を限度とし、両チームが揃っていれば試合開始時間を早めることがある。

- ⑧ ベンチ入りは、本大会登録の監督、コーチ2名、スコアラーと10名以上25名以内の登録選手とする。なお、選手9名でも試合は認めることとする。監督・コーチ以外はユニフォームを着用しない。但し、選手の健康管理補助要員として保護者2名以内の(チームスタッフを除く。指示だしや写真撮影は不可です。)ベンチ入りを認める。
- ⑨ 監督が不在の時は29番を監督代行として認めるが(本部にその旨を必ず報告し承認を得ること)登録の監督、コーチ3名が全員不在の場合は棄権とする(合同チームも同様)
- ⑩ 試合中に極端に攻撃が長引いた場合は選手の体調を考慮して主催者・審判員は適時給水タイムを取るものとする。(条件にもよるが、守備時間15分を目安とする。) **給水タイムは、試合時間に含める。**
- ⑪ 合同チームは上部大会への出場権利も発生します。本大会の賞にも該当します。
- ⑫ スポーツ保険は必ず加入する事が参加の条件です。大会期間中に発生した事故について、応急措置のほかは一切の責任を持たない。

## 5. 試合用具と服装

- ① 靴は金属のないピンポイントシューズ等を使用する。
- ② 使用バットについては木製バットを除き、金属・ハイコンバット(複合)は、J.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認のものに限る。ただし、光が丘第七小跡地グラウンドはウレタンやスポンジなどの弾性体を使用した高反発バット(通称:ビヨンド系)の使用を禁止とする。  
※光が丘第七小跡地グラウンド使用可能バットは木製、金属製、カーボン製、複合(弾性体なし)とし木製以外は少年軟式用に限る。
- ③ 捕手は、J.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認レガース、プロテクターおよびSGマーク付き(推奨)のマスク(スロットガード付)、ファウルカップを着用する。打者、コッチャー等もJ.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認ヘルメットを着用する。
- ④ 攻撃中の打者、次打者、走者、ベースコッチャー、ボールボーイ、バットボーイは、危険防止のため必ずJ.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認ヘルメットを着用すること。また、捕手と控え捕手は必ずJ.S.B.Bのマークをつけた全軟連公認プロテクター、マスク(スロットガード付)ヘルメット、レガース、ファウルカップを着用すること。
- ⑤ 監督、コーチ、選手は、同一、同意匠のユニフォーム(帽子、ストッキング、アンダーシャツ)を着用する。ユニフォームは、ロングパンツは厳禁とする。スコアラーはスポーツウェア(半ズボン、ユニフォーム、審判服は禁止)で品位を損ねないものを着用し、チーム統一の帽子を着帽する。ただし、合同チームでの出場は各チームのユニフォームでの出場は認めるが背番号の重複は認めない。

## 6. 注意事項

- ① 品位を欠くような言動は一切行ってはならない。特に、相手チームや審判員に対してのヤジは厳禁。注意を受けたにも関わらず、続けた場合は審判員の判断によりその該当者を試合から除外することもある。
- ② ベンチに持ち込むメガホンは1個とする。また、ベンチ内に携帯電話、カメラを持ちこまない。  
**(スコア管理のスマホ等は認めるが、通信、撮影等の行為は認めない)**
- ③ 指定された場所以外での練習は禁止する。
- ④ 応援については、品位を欠くような応援をしてはならない。
- ⑤ グラウンド内はベンチ入りできる登録メンバー、健康管理者以外は入れない。
- ⑥ ベンチ入りのコーチ、スコアラー、健康管理者は試合中にベンチを出てはならない。
- ⑦ スタンド、応援席からベンチの監督、コーチや選手の指示、助言等をしてはならない

### **※健康管理者(保護者2名に限る)のベンチ入りに関する注意事項**

- ① スポーツに相応しい服装(出来ればスポーツウェア)及びシューズを履くこと。  
あくまでも選手の健康管理としてベンチ入りするため、チームの帽子は着帽しない。
- ② 試合中に選手へのアドバイスや指示は禁止。
- ③ 携帯電話・スマートフォン・カメラ・ビデオ等の使用は禁止とする。
- ④ 審判団が目余る行為であると判断した場合はベンチ退場の処置をする。

以上